

平成 25 年度岐阜県図書館「図書館評価」

報告書

平成 26 年 8 月

岐阜県図書館

目次

1	岐阜県図書館「図書館評価」概要	1
2	自己評価の方法	2
3	外部評価の方法	2
4	平成25年度「図書館評価」	3
	目的Ⅰ「広域性の発揮」に関して	3
	目的Ⅱ「専門性の発揮」に関して	4
	目的Ⅲ「経営の視点」に関して	6

(資料)

- ・平成25年度岐阜県図書館改革アクションプラン 評価シート
- ・数値目標と実績等

1 岐阜県図書館「図書館評価」概要

(1) 図書館評価の目的

岐阜県図書館が果たすべき役割、目指すべき方向性についてまとめた「岐阜県図書館改革方針」の達成度をはかるとともに、図書館法第7条の3に基づき、図書館機能の向上と運営の改善を目的として図書館評価を行うものとする。

(2) 期間

平成21年度から平成25年度までの5年間とする。

(3) 評価の構成

①評価項目

「岐阜県図書館改革方針」において果たすべき役割として掲げられている「広域性の発揮」「専門性の発揮」「効率的な図書館経営」を実現するための指標を定め、それぞれについて目標値を設定する。

②評価方法

指標に対する達成率として、以下の4段階による自己評価を行う。

評価	評価基準の内容	
S	極めて優れている。	取組や活動が極めて優れており、特筆すべきである。
A	良好である。	取組や活動が良好であり、目標が達成されている。 (数値目標の達成率100%以上)
B	不十分である。	取組や活動が不十分であり、改善すべきところがある。 (数値目標の達成率100%未満)
C	極めて不十分である。	取組や活動が極めて不十分であり、課題の整理・抜本的な計画の見直し・改善が必要である。

自己評価ののち、岐阜県図書館協議会による外部評価を行い、その結果を公表する。

(4) 評価のサイクル

- ①アクションプランに基づく事業の実施(4月～翌年3月)
- ②当該年度12月までの取り組み結果について自己評価(中間評価)の実施(翌年1月)
- ③図書館協議会による外部評価の実施(翌年2～3月)
- ④中間評価結果及び外部評価を踏まえた次年度4月からの事業計画策定
- ⑤当該年度の自己評価の実施(翌年3月～5月)
- ⑥当該年度評価の確定・公表(翌年8月)
- ⑦図書館協議会による外部評価の実施(翌年7～8月)

2 自己評価の方法

岐阜県図書館の役割である「広域性」「専門性」「効率性」を発揮したサービスを実現するため、強化すべき取り組みの達成度を測る指標を定め、指標ごとの評価シートにより自己評価を行う。

評価シートの内容は以下のとおりとする。（評価シート：別紙参照）

- ・アクションプランと当該年度の具体的な取り組み結果
- ・指標名
- ・数値目標
 当該年度の目標値、実績、達成率、次年度の目標値
- ・評価（4段階）
- ・各指標、取り組みについてのコメント（自己評価）
- ・次年度以降の取り組み
 当該年度の問題点、改善点を踏まえた次年度以降の計画

3 外部評価の方法

評価シートの自己評価結果をもとに、岐阜県図書館協議会による外部評価を行う。

評価は、各指標について、目標値、取り組み、自己評価、今後の方策等に対する意見を図書館協議会の場で実施したのち取りまとめることによる。

4 平成25年度「図書館評価」

○ はじめに

岐阜県図書館では、平成21年5月に「岐阜県図書館改革方針」を策定した。岐阜県図書館が果たすべき役割、目指すべき方向性、中核図書館として真に必要な機能やサービスのあり方について見直しをし、あわせて改革案を達成するための具体的な数字目標値を定めた。そして平成21年度以降、改革方針を実現するため各年度に実施すべき具体的方策を「岐阜県図書館改革アクションプラン」としてまとめ、取り組みを実施してきた。

以下、平成25年度の取り組みに対して実施した、図書館評価の概要をまとめる。

○ 広域性の発揮に関して

1 市町村図書館等のバックアップ、利用促進

県図書館が第一に担うべき役割は、すべての県民が身近な図書館で多様なサービスを受けられるよう、市町村図書館等のサービス向上に貢献することにあります。平成25年度も引き続き、市町村図書館等の利用促進を図るための取り組みを継続します。

2 大学図書館・学校図書館との連携

県内の学生や生徒・児童に対し、大学図書館・学校図書館を通して県図書館の所蔵資料やサービスを提供するための取り組みを継続します。

自己評価

主な取り組み内容

市町村図書館等のサービス向上を支援するため、また大学図書館・学校図書館を通じた県図書館の所蔵資料・サービスを提供するために、これまで行ってきた取り組みを継続して行った。

- ・相互貸借業務支援
- ・県内図書館職員向け研修の拡充
- ・大学との相互貸借、連携事業
- ・小中学校等へのセット文庫貸出

実施状況

別紙「評価シート」参照

成果と課題

【市町村図書館等のバックアップ、利用促進】

- ・相互貸借のうち、東海北陸地区の各県立図書館からの借受け冊数と、県内図書館間での借受け冊数は、目標値を上回り、県図書館が県内外の図書館を相互に結ぶ中核的役割を果たしている。
- ・他方、相互貸借のうち、県図書館からの貸出し冊数は前年度より1割ほど減少し、目標値を下回った。これは、「課題解決型図書館」を目指した専門性の高い資料の収集を継続する中で、現行の利用者ニーズの高い資料の割合が減少したためと考えられる。今後、県図書館の専門性の高い資料がより有効に活用されるよう、PR等の工夫に取り組む必要がある。
- ・県内図書館職員向け研修会は、参加者が前年度より大幅に増え、参加者満足度も目標値を上回るなど、ニーズに即した研修が実施できている。
- ・館長や一般職員の意見交換会において、職員の資質向上への支援の要望が高いことから、研修内容のさらなる充実に取り組む必要がある。

【大学図書館・学校図書館との連携】

- ・大学図書館との相互貸借は、制度運用から長年経つもののいまだに利用が少ないことから、現在協定を結んでいる岐阜大学・中部学院大学と協力し、PRの強化に取り組む必要がある。
- ・岐阜大学・中部学院大学以外の県内他大学の参加を促し、相互貸借ネットワークの充実を図っていく必要がある。
- ・小中学校・特別支援学校へのセット文庫貸出は、前年度に比べやや増加したものの、目標値を下回った。今後とも、学校現場の声を十分聴き取り、セット内容に反映させるとともに、学校へのPRの強化に取り組む必要がある。
- ・高等学校からの、専門書を中心とした図書購入のリクエストに応える体制づくりができた。次年度は、定期的にメールで案内をするなどして、利用促進を図っていく。

図書館協議会による意見

- ・セット文庫の利用を今以上に活発化させる方法について情報を収集する必要がある。
- ・学校側のカリキュラムが同じなので同時期にセット文庫の利用が重なるため、数値目標が上がらないのはやむを得ないのではないか。
- ・小中学校のセット文庫貸出は、市町村図書館が主体で実施すべき。
- ・資料が大幅に収集できるように予算増を求めたい。
- ・相互貸借ではタイトルだけの検索だと内容が分かりづらく借りにくい。

○ 専門性の発揮に関して

1 当館職員の専門性の向上

個別、専門的なニーズや課題に、迅速・的確に対応できるよう、当館職員の専門性の向上を図るための取り組みを継続します。

2 専門性の高い資料の収集と提供

市町村図書館との資料収集・保存における役割分担を明確にし、専門性・学術性・稀少性を考慮した選書を維持しつつ、パスファインダー(しらべかた案内)の作成と連動させた課題解決に役立つ資料の選書を進めます。また、児童図書研究室資料、郷土関係資料、地図資料等のさらなる有効活用に向けたサービスを強化します。

3 県行政機関等との連携

多くの県民が訪れる県図書館を、岐阜県の行政情報をPRする場として活用するための取り組みを継続します。

図書研究室資料、郷土関係資料の利活用を図るツールの作成を継続して行った。

- ・ 県民の課題解決を支援するレファレンスの実施
- ・ 課題解決に役立つパスファインダーの作成と選書の実施
- ・ 社会科学関係図書の分類の細分化
- ・ 専門性の高い資料の収集に対する客観的評価の実施
- ・ 県行政機関等との連携

実施状況

別紙「評価シート」参照

成果と課題

【当館職員の専門性の向上】

- ・ 県民の課題解決を支援するため、一人1パスファインダーの追加作成に取り組んだが、目標値を若干下回った。課題解決図書館を目指す中で、身近な課題解決をテーマに取り上げパスファインダーを作成し、関連資料の充実に努めた。
- ・ レファレンス件数も目標値を下回っているが、満足度は目標値を達成している。インターネット等の普及が進む中、今後、レファレンス件数が大幅に伸びるとは見込まれないが、レファレンスの質を高め、利用者の満足度をさらに高めるため、職員の専門性の向上に一層取り組む必要がある。

【専門性の高い資料の収集と提供】

- ・ 社会科学分野（3類）の分類5桁への細分化や、芸術分野（7類）の蔵書評価に基づく排架場所の見直しなど、分かりやすく利用しやすい図書館への改善を図った。
- ・ 児童図書研究室の入室者は、前年度に比べ大幅に増加した。今後も継続して、児童図

書研究室での研修会、勉強会でのPRに努める。

- ・ 県内図書館の障がい者サービス実施館は、目標値を下回っているため、実施館の増加に向けたPRの強化やさらなる支援に取り組む必要がある。
- ・ 郷土資料のデジタル化の一層の推進とともに、利用しやすいデジタルコンテンツの整備を進める必要がある。

【県行政機関等との連携】

- ・ 県政に関するテーマ展示やブックリストの作成、夢チャレンジコーナーや県行政情報コーナーのパンフレット配置など、県行政と所蔵資料を関連付けてPRできた。
- ・ 今後とも、県が進める「清流の国ぎふ」づくりや、隣接する岐阜県美術館の企画展等との連携を強化し、県政情報を効果的に発信する場としての役割を果たしていく必要がある。
- ・ 県行政機関(県職員)からのレファレンス件数は、県職員へのPRに努めた結果、前年度から大幅に増加し、目標値を上回った。

図書館協議会による意見

- ・ NDC（日本十進分類法）の活用にあたっては利用者側に立つことが専門性の発揮につながる。
- ・ 利用者が図書館の開架室の入口でNDC等の紙の資料を用いて本を探せるようにしてはいかがでしょうか。
- ・ 利用者がいかに利用しやすいかどうか、欲しい本がすぐ探せるかという観点で専門性を考えてほしい。
- ・ 県行政との連携はうまくいっている。少子化、ワークライフバランスといったコーナーであれば利用者も活用しやすい。

○ 経営の視点に関して

1 経営の視点

「広域性の発揮」と「専門性の発揮」で掲げた取り組みを、経営の視点をもって効率よく、かつ効果的に実施するほか、業務の選択と集中を意識した見直しを図ります。また、岐阜県図書館の役割と特徴を周知するための広報に努めます。

自己評価

主な取り組み内容

経営の視点をもって効率的かつ効果的な図書館運営を推進するため、自己評価及び外部評価の実施、AVサービスの見直し、施設の有効活用を図るためのミニ講座の開催や多目

的ホール等の有料開放などを行った。

- ・ 自己評価および外部評価の実施
- ・ AVサービスの見直し
- ・ 図書館活用ミニ講座の実施
- ・ 施設の有料開放

実施状況

別紙「評価シート」参照

成果と課題

【経営の視点】

- ・ 自己評価及び外部評価は、館内の自己評価後、岐阜県図書館協議会の評価(外部評価)を受ける仕組みとしており、毎年度実施し、その結果を公表している。
- ・ AVサービスでは、郷土資料に重点を置いた資料購入を進めてきた。平成27年6月開館予定の岐阜市中央図書館新館で、AV資料を充実させる計画があることから、同館とAVサービスについて役割分担を協議する必要がある。
- ・ 多目的ホール等の有料開放(貸し出し)は、前年度に比べ大幅に伸び、施設の有効活用を図ることができた。
- ・ 雑誌スポンサー制度は、経費削減のために実施したが、制度が煩雑で、宣伝効果が表れにくく、スポンサー希望者が減少し、年度末においてゼロになった。この制度については、制度の仕組み全体を見直す必要がある。

図書館協議会による意見

- ・ 岐阜市立図書館の開館により岐阜県図書館の運営に与える影響や必要なくなる業務が生じるのではないか。
- ・ 岐阜県図書館と岐阜市立図書館の豊富な資料を使って質の良いサービスをしていただきたい。
- ・ 本来の県図書館の上手な使い方をはっきり利用者に伝えるとよい。

○ おわりに

以上のとおり、平成25年度「図書館評価」の概要を報告した。

図書館評価によって把握することのできた成果と課題をふまえて、平成26年度から次の5年間の新たな図書館運営方針を作成し、より充実した図書館運営を行っていくこととしたい。